

第13単元 小数のかけ算とわり算①

問題番号	配点	解 答	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	50 (各5)	① 9.6 ② 131.5 ③ 28 ④ 101.5 ⑤ 43.68 ⑥ 347.7 ⑦ 15.6 ⑧ 0.12 ⑨ 1.37 ⑩ 0.041	知技 小数×整数、小数÷整数の計算ができる。	整数×整数、整数÷整数の筆算のしかたを確認する。被乗数、被除数の小数の大きさを確認し、整数化して求めた答えに対して、小数点をどこにうてばよいか考えさせる。答えの見積もりをしてから、積や商を求められるようにする。
②	10 (各5)	① 7.2 ② 0.72	知技 被乗数を10倍、100倍すると、積も10倍、100倍になることを理解している。	教科書 p.12のかけ算の性質を振り返り、小数×整数の計算はこの性質を使っていることを確かめる。
③	10 (各5)	① 0.7 ② 0.07	知技 被除数を $\frac{1}{10}$ 、 $\frac{1}{100}$ すると、商も $\frac{1}{10}$ 、 $\frac{1}{100}$ になることを理解している。	$5.6 \times 10 = 56$ 、 $0.56 \times 100 = 56$ であることを確認し、商をどのように求めればよいか考えさせる。
④	10 (各5)	式 $33.6 \div 4$ = 8あまり1.6 答 8本とれて1.6mあまる。	知技 場面に応じた立式ができる。問題を解決することができる。	図などに表して考えさせる。また、場面は小数÷整数であるが、整数÷整数に置き換えて、それを基に考えさせるのもよい。
⑤	20 (各10)	式 $14 \div 28 = 0.5$ 答 0.5倍	知技 基準量や比較量をとらえ、除法を用いて何倍かを求められることを理解している。	数直線や図を使って考えられるようにする。または、横の長さの□倍が縦の長さであることから、 $28 \times \square = 14$ の式に表し、□を求めるには $14 \div 28$ の式を導くことを指導するのもよい。

第13単元 小数のかけ算とわり算②

問題番号	解 答	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	かおり 6、6、24、24、2.4 ひろき 6、6、24、24、2.4	思判表 被乗数が小数のときの乗法の計算のしかたを、筋道立てて説明している。	LとdLの単位関係や小数の構成についての理解が不十分な児童には、教科書に戻って考えるように助言する。
②	① ㊦ ② ㊧	思判表 筆算途中の数の意味について位取りを基にとらえている。	筆算の各段階での計算を取り出し、それぞれの意味を確認する。その際、筆算では省略されている0や小数点も示し、理解を確実にできるようにする。

▶ 思考力・判断力・表現力の評価

評価	A	B	C
正答数	12～10問	9～6問	5～0問

▶ 主体的に学習に取り組む態度の評価

評価	A	B	C
選択内容	3項目とも意欲的である。	3項目ともおおむね意欲的である。	どの項目も消極的である。